

2010年度 精神科診療所こひつじ診療所 事業計画

引き続き、小回りのきく精神科、心療内科中心の診療所として、地域に密着しつつ、特色のある福祉医療活動を実践、展開していく。

1. 児童精神科、発達障がい者にも対応できる精神科、心療内科として診療活動を続けていく。

看護師（常勤1名 非常勤1名）精神保健福祉士（2名）臨床心理士（非常勤2名 4月から3名）たちと共に、午前8時より診察を開始し18時前後まで、30分ほどの昼休みを除いて、ほぼ絶えることなく、診察に明け暮れている。発達障がいを含む3歳児も含め、子どもの受診が多い。

ホームページを見るなどして、成人の受診も増加している。今年度も、初診時になるべく丁寧にみて、必要なケースはフォローし、成長を見守っていくように心がけたい。医師1名だけでは限界があり、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、背後から「まきばの家」のスタッフたちとの協力が得られていること、さらに、豊かな自然環境、動物たち（現在、待合室や診察室の前に6頭の羊が放牧されている）が備えられていることに深く感謝している。

診療所内のデイケア空間と豊かな自然、作業環境を生かし、必要な通院者が日中過ごせる活動の場としてのあり方を模索していく。

これまでの受診者の状況をより細かく理解、分析するために統計を精神保健福祉士が整理、作成中であり、2007年7月より2009年12月末までの統計がまもなく完成する予定である。

2. 先のことを見通しながら、「ディアコニア」・「まきばの家」・「こどもの家」と、より連携するためのあり方について模索していく。

「こどもの家」・「まきばの家」の児童、青年を診察し、フォローしているケースが増えている。

引き続き、「ディアコニア」の入所者も必要な方の診察を行い、また各施設スタッフの相談に応じていく。今年度も「まきばの家」の症例検討会（児童相談所の職員も参加）に、診療所スタッフも可能な限り参加していく。「まきばの家」以外の児童養護施設、自立援助ホーム、乳児院の職員などとの交流も、「まきばの家」の職員と共に深めていく。「ディアコニア」以外の特別養護老人ホームとも交流していく。3月末、函館市「旭ヶ岡の家」の理事長 グロード神父を訪問の予定がある。

3. 比較的小規模な地域（袋井市とその周辺地域）において、福祉・教育・医療連携の可能性を、特に養護が必要な発達障がいなどの子どもたちを中心に見据えながら模索していく。

袋井市と掛川市の特別支援教育支援チームの委員長を今年度も務めていく予定。

静岡県西部の就学指導委員会と袋井市の就学指導委員会の委員も継続していく。

袋井市では、必要な子どもを、広い意味で「要養護児童」として見守り、保健センター、教育委員会、しあわせ推進課が、横断的包括的に連携するために、2008年4月より、各機関が合同して、幼児や小学生の事例検討会を年6回開催したが、今年も委員として参加していく。

2007年10月に委員長として提言した、袋井市の早期療育施設の開設について、袋井市がその一歩として並行通園施設「はぐくみ」を5月より開設するが、そのために必要な協力をしていく。

4月より、袋井特別支援学校磐田分校の精神科医師として校医を勤める予定である。

4. 日本キリスト者医科連盟静岡部会（武井が部会長）の例会を、可能な範囲でデンマーク牧場福祉会と共催し、年に3回程度、土曜日の午後、「まきばの家」で講演会を開催していく（地域の方々も含めて、毎回30~40人の方が参加されている）。

以上